

まちづくり交付金 事後評価シート
宇宿中間地区

平成20年11月

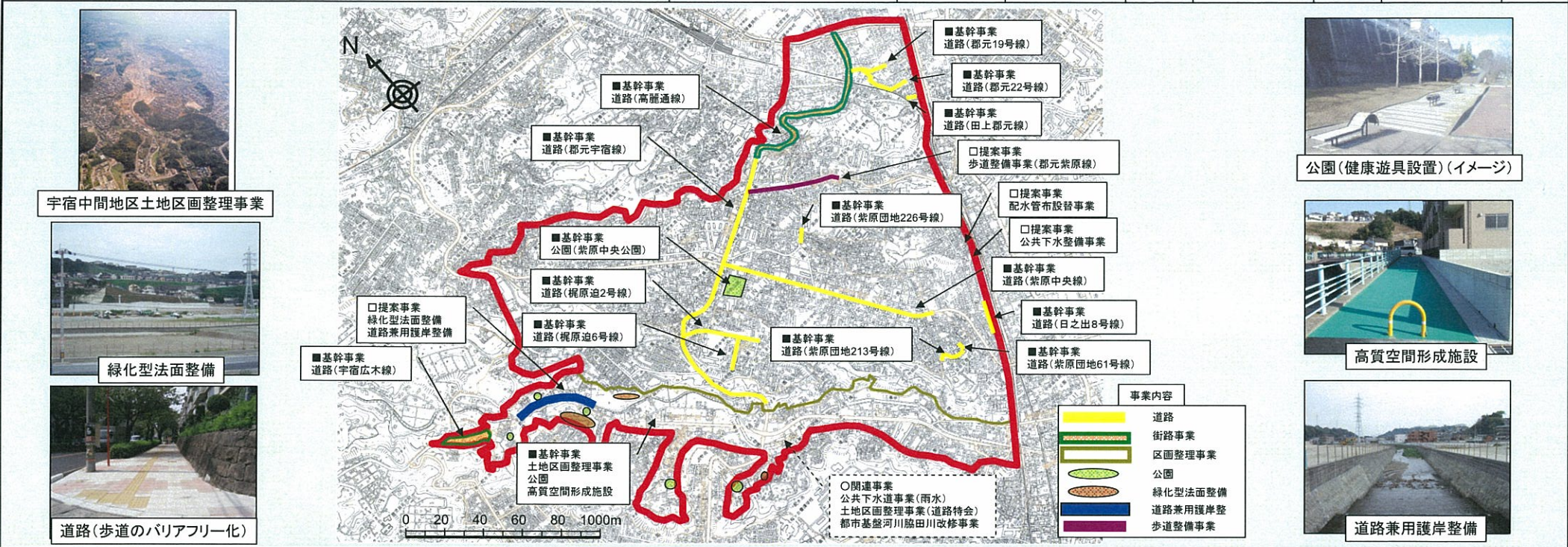
鹿児島県鹿児島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	鹿児島市	地区名	宇宿中間地区			面積	444.7ha				
交付期間	平成16年度～平成20年度		事後評価実施時期	平成20年度		交付対象事業費	8,104.8百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名										
	基幹事業		公園(永仮公園、鍋ヶ宇都公園、広木第一公園、広木第二公園、広木第三公園)、高質空間形成施設(道路照明、緑道整備)、土地区画整理事業(宇宿中間地区)										
	提案事業		緑化型法面整備										
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響						
	提案事業		なし		土地区画整理事業の進捗状況から、計画期間内の整備が困難となったため、交付対象事業から中間公園を削除した。		指標2の「避難所(公園等)までの平均距離」の目標値を103mから185.4mへ変更した。						
新たに追加した事業	基幹事業		道路(宇宿広木線、高麗通線、紫原中央線、郡元宇宿線、梶原迫2号線、日之出6号線、紫原団地213号線、紫原団地61号線、紫原団地226号線、郡元19号線、郡元22号線、梶原迫6号線、田上郡元線)公園(紫原中央公園:健康遊具設置)		生活環境の改善及び防災性の向上を図るため、追加した。		指標4の「都市計画道路の歩道バリアフリー化率」、指標5の「地区内居住人口数」を追加した。						
	提案事業		道路兼用護岸整備、歩道整備事業、公共下水道整備事業、配水管布設替事業		生活環境の改善及び防災性の向上を図るため、追加した。		指標4の「都市計画道路の歩道バリアフリー化率」、指標5の「地区内居住人口数」を追加した。						
	交付期間の変更		当初	平成16年度～平成20年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし					
		変更	平成 年度～平成 年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
	指標1	斜面危険地帯面積(土地区画整理事業区域内)	m ²	8,878	H15	8,066	H20	7,140	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の防災上危険なシラス急傾斜面の整備により、宅地の安全性が確保され、宅地の利用増進が図れた。	平成21年度内	
	指標2	避難所(公園等)までの平均距離	m	192	H15	185.4	H20	185.4	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の公園予定街区の敷地整備が完成したことにより、周辺住民の災害時における避難地が確保された。		
	指標3	幹線道路の夜間平均照度(土地区画整理事業区域内)	ルクス	0	H15	5	H20	9	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の道路照明施設の設置により、夜間における歩行者や車両通行の安全性が向上した。		
	指標4	都市計画道路の歩道バリアフリー化率	%	33	H17	57	H20	50	△	あり なし	一部路線の整備内容見直しにより、歩道整備計画の目標延長を達成できなかったが、良質な歩道整備が実施できた。	平成21年度内	
指標5	地区内居住人口数	人	45,811	H15	46,645	H20	46,680	○	あり なし	居住環境良好な宅地の形成により、宅地の利用増進が図られ、地区内居住人口が増加した。	平成21年5月		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期		
その他の数値指標1	都市再生整備計画区域内道路の歩道整備割合	%	39	H15			73			既設歩道の改良やバリアフリー化、新たな歩道設置により、歩行者の安全性と快適で良好な歩行者空間が確保された。	平成21年度内		
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地の利用増進とともに、良好な住環境の形成が図られた。 ・消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、市民の安心・安全に貢献した。 ・良好なまち並みが形成されるなど、都市景観が向上した。 ・商業施設や病院の立地が進み、市民生活の利便性が向上した。 ・若い世代の定住化が進み、まちが活性化した。 												
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等				
	モニタリング	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								
	住民参加プロセス	公園設計に係る住民アンケート調査			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域住民の意見を反映したまちづくりに努める。				
	持続的なまちづくり体制の構築	なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった								

様式2-2 地区の概要

宇宿中間地区(鹿児島県鹿児島市) まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
防災性の向上や生活環境の改善を図るとともに、自然環境の保全・創出を図り、自然と調和した緑あふれるまちづくりを目標とする。	斜面危険地帯面積	単位: m ²	8,878	H15	8,066	H20	7,140	H20
	避難所(公園等)までの平均距離	単位: m	192	H15	185.4	H20	185.4	H20
	幹線道路の夜間平均照度	単位: ルクス	0	H15	5	H20	9	H20
	都市計画道路の歩道バリアフリー化率	単位: %	33	H17	57	H20	50	H20
	地区内居住人口数	単位: 人	45,811	H15	46,645	H20	46,680	H20



まちの課題の変化

- ・道路事業による路肩改良や緑化型法面整備事業による土地区画整理事業区域内のシラス急傾斜面の整備により、防災性が向上し、宅地の利用増進が図れたが、都市再生整備計画区域内には、防災上危険な箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業の進捗による公共施設の整備改善、配水管の耐震化による地震時の二次災害防止など、災害に強い快適で良好な居住環境が形成されたが、都市再生整備計画区域内には、まだ未整備の箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業区域内の公園予定街区の敷地整備や紫原中央公園の健康遊具設置により、災害時の避難地や地域住民の健康づくりの場の提供など、安心安全で良好な居住環境が形成されたが、土地区画整理事業区域内には、整備すべき公園や遊戯施設、便益施設などが未整備の公園が残されている。
- ・土地区画整理事業区域内の幹線道路に道路照明施設を設置し、夜間における歩行者や車両通行の安全性が向上したが、土地区画整理事業区域内の幹線道路の整備は完了していないため、道路照明施設の設置が必要な箇所が残されている。
- ・都市計画道路高龍通線については、一部を供用開始できるなど、地域交通の円滑化及び安全性の向上が図られたが、計画区間の内、未整備区間が残されている。
- ・道路兼護岸整備により護岸整備と道路整備を同時に実施することで、河川氾濫による災害防止と居住環境良好で安心安全な市街地形成が効率的に行われたが、未整備箇所が残されている。
- ・土地区画整理事業の進捗に伴い、地区内の幹線道路において交通量が増加してきているため、交通安全施設を整備するなど、歩行者や車両通行の安全性の確保が必要となってきている。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・各種事業により改善された良好な住環境を維持するため、市民と協働した公共施設の維持管理に努める。
- ・都市再生整備計画区域内には市街地の発展と都市機能が阻害されている公共施設等(道路、公園、シラス急傾斜面、道路兼護岸、公共下水道、配水管等)が残されていることから、公共施設の整備改善や住居表示を実施し、居住環境良好な市街地の形成を図る。
- ・土地区画整理事業の進捗に伴い、地区内の幹線道路において交通量が増加してきていることから、歩行者や車両が安全かつ快適に移動できるよう交通安全施設の整備を図る。

まちづくり交付金 事後評価シート
吉野地区

平成20年11月

鹿児島県鹿児島市

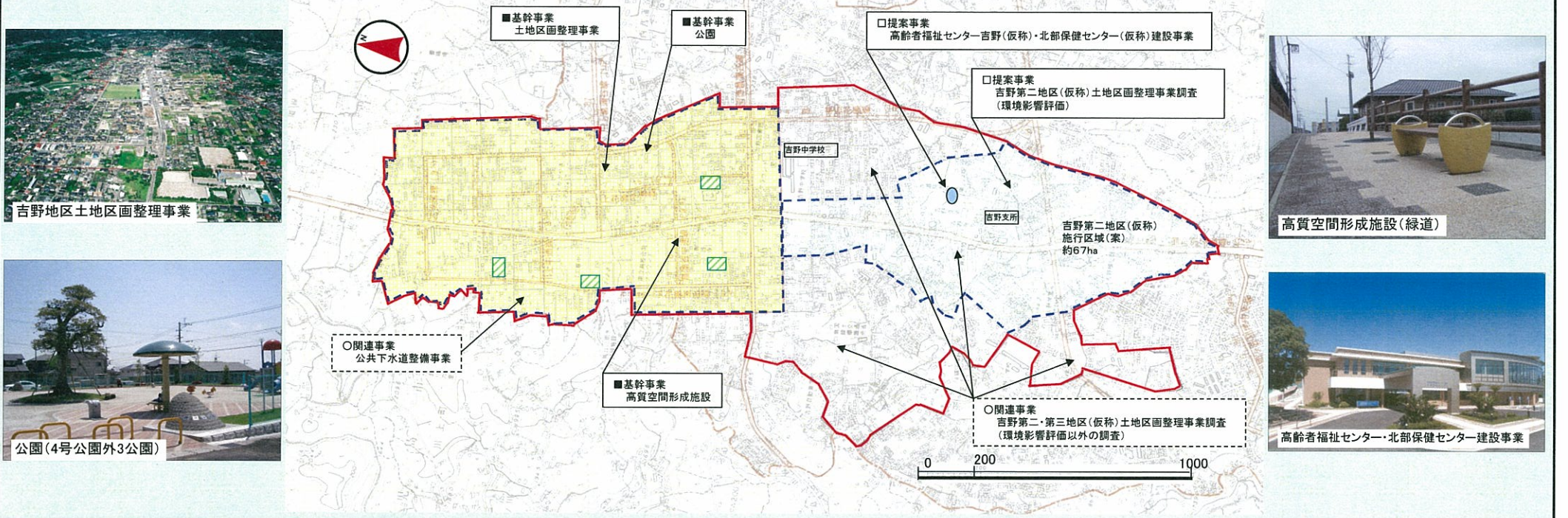
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	鹿児島市	地区名	吉野地区		面積	255.1ha				
交付期間	平成16年度～20年度	事後評価実施時期	平成20年度	交付対象事業費	4,410.2百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(2号公園、3号公園、4号公園)、高質空間形成施設(緑道整備)、土地区画整理事業(吉野地区)									
		提案事業	なし									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	公園(1号公園、6号公園)		削除/追加の理由		土地区画整理事業の進捗状況から、計画期間内の整備が困難となったため、交付対象事業から1号及び6号公園を削除した。					
		提案事業	なし				指標3の「公園(避難場所)までの平均距離」が未達成である。					
	新たに追加した事業	基幹事業	公園(7号公園:実施設計)		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		土地区画整理事業の進捗状況から、7号公園の実実施設計を追加した。					
		提案事業	高齢者福祉センター吉野・北部保健センター建設事業 吉野第二地区(仮称)土地区画整理事業調査(環境影響評価)		指標3の「公園(避難場所)までの平均距離」が未達成である。		指標4の「高齢者の生きがいと健康づくりの為にセンターを利用する人数」、指標5の「健康づくり活動の拠点施設(保健センター)までの所要時間」を追加した。					
交付期間の変更	当初変更	平成16年度～平成20年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		なし							
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度				
	指標1	緊急車両が離合できる道路の割合	%	66	H15	89	H20	83	△	あり なし	土地区画整理事業区域内において、道路整備は計画どおりに進まなかったが、大部分の道路で消防車や救急車等の緊急車両が離合できる幅員が確保された。	平成21年5月
	指標2	歩行環境に不満を感じている世帯の割合	%	76	H15	20	H20	17	○	あり なし	土地区画整理事業区域内の歩道の分離、道路の安全施設や緑道の整備が進み、地域住民の歩行環境に対する安心感や満足度が高まった。	平成21年5月
	指標3	公園(避難場所)までの平均距離	m	1,034	H16	182	H20	289	△	あり なし	土地区画整理事業区域内において、公園整備は計画どおりに進まなかったが、区域西側で公園整備が完了し、コミュニティの場となる公共空間と災害時の避難場所が確保された。	平成21年5月
	指標4	高齢者の生きがいと健康づくりの為にセンターを利用する人数	人	872	H16	80,000	H20	138,468	○	あり なし	地域住民の身近なところに高齢者の相互交流や生きがい・健康づくりを支援する拠点施設が完成し、本市北部地域の福祉サービスが向上した。	平成21年4月
指標5	健康づくり活動の拠点施設(保健センター)までの所要時間	分	30	H17	13	H20	13	○	あり なし	地域住民の身近なところに地域の健康づくり活動や健康情報発信の拠点となる施設が完成し、保健サービスの充実が図られた。		
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1				
	その他の数値指標1	住居付近の道路幅員に不満を感じている世帯の割合	%	73	H15			23			土地区画整理事業区域内の道路や歩道が整備されたことにより、地域住民の道路幅員に対する満足度が高まった。	平成21年5月
	その他の数値指標2	火災・地震等の災害時における住居付近の環境に不安を感じている世帯の割合	%	57	H15			15			土地区画整理事業区域内の公園や道路が整備されたことにより、災害時の避難場所の確保、避難経路が改善され、防災面で不安を感じる世帯の割合が減少した。	平成21年5月
その他の数値指標3	住居付近に公園が不足していると感じている世帯の割合	%	73	H15			20			土地区画整理事業区域内の公園が整備されたことにより、子供たちが安心して遊べる場所、コミュニティの場が確保され、地域住民の満足度が高まった。	平成21年5月	
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地の利用増進とともに、良好な住環境の形成が図られた。 ・消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、市民の安心・安全に貢献した。 ・良好なまち並みが形成されるなど、都市景観が向上した。 ・商業施設や病院の立地が進み、市民生活の利便性が向上した。 											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	公園設計にかかる住民アンケート調査	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域住民の意見を反映したまちづくりに努める。					
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった										

様式2-2 地区の概要

吉野地区(鹿児島県鹿児島市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標 機能的で多彩な交流が広がるまちづくり 目標1 交通環境改善を図ることにより安全で快適なまちづくりを行う。 目標2 公園、緑道を整備することにより良好な都市景観の形成並びに地域コミュニティの場を提供する。 目標3 高齢者の健康づくりや生きがいづくりを支援するとともに、市民の健康づくり活動の拠点となる施設を提供する。	緊急車両が離合できる道路の割合 単位: %	66	H15	89	H20	83	H20
	歩行環境に不満を感じている世帯の割合 単位: %	76	H15	20	H20	17	H20
	公園(避難場所)までの平均距離 単位: m	1,034	H16	182	H20	289	H20
	高齢者の生きがいと健康づくりの為にセンターを利用する人数 単位: 人	872	H16	80,000	H20	138,468	H20
	健康づくり活動の拠点施設(保健センター)までの所要時間 単位: 分	30	H17	13	H20	13	H20



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> 土地区画整理事業区域内において主要地方道鹿児島吉田線の一部区間の整備により交通渋滞が緩和され、また、区域内の大部分の道路で消防車や救急車等の緊急車両が離合できる幅員が確保されるなど、安全性と防災性が向上したが、主要地方道鹿児島吉田線の未整備区間の交通渋滞や緊急車両の離合が困難な道路が残されている。 土地区画整理事業区域内の西側で3公園の整備が完了し、コミュニティの場となる公共空間と災害時の避難場所が確保されたが、区域内の東側には整備すべき公園が残されている。 地域住民の身近なところに高齢者の相互交流や生きがい・健康づくりを支援する拠点施設「高齢者福祉センター吉野」と地域の健康づくり活動や健康情報発信の拠点となる「北部保健センター」が完成し、本市北部地域の福祉サービスの向上と保健サービスの充実が図れた。 土地区画整理事業の進捗に伴い、住宅地周辺の交通量が増加してきているため、交通安全施設を整備するなど、歩行者や車両通行の安全性の確保が必要となってきている。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> 各種事業により改善された良好な住環境を維持するため、市民と協働した公共施設の維持管理に努める。 高齢者福祉センターが、今後も高齢者の相互交流や生きがい・健康づくりを支援する拠点施設として利用されるよう、引き続き各種講座を開催するなど、適切な管理運営を行っていく。保健センターについても地域の健康づくり活動や健康情報発信の拠点として更なる機能充実を図る。 吉野地区土地区画整理事業区域内において主要地方道鹿児島吉田線の未整備箇所での交通渋滞や、緊急車両の離合が困難な道路が残されていることから、土地区画整理事業により交通環境の改善など居住環境良好な市街地の形成を図る。 吉野第二地区(仮称)土地区画整理事業予定区域では、地域住民のコミュニティの場や避難場所として機能する公園の不足など、都市基盤が十分でない箇所が残されていることから、事業実施に向けた調査を行う。 土地区画整理事業の進捗に伴い、住宅地周辺の交通量が増加してきていることから、歩行者や車両が安全かつ快適に移動できるよう交通安全施設の整備を図る。

まちづくり交付金 事後評価シート
谷山第二地区

平成20年10月

鹿児島県鹿児島市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	鹿児島県	市町村名	鹿児島市	地区名	谷山第二地区	面積	72.9ha
交付期間	平成16年度～平成20年度	事後評価実施時期	平成20年度	交付対象事業費	1,505.5百万円	国費率	0.4

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業 提案事業	事業名 公園(谷山第二中央公園、不動寺公園)、土地区画整理事業(谷山第二地区) なし				
	当初計画から削除した事業	基幹事業 提案事業	事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	新たに追加した事業	基幹事業 提案事業	公園(本城公園、岩下公園)	土地区画整理事業の進捗状況から、計画期間内の整備が困難となったため、交付対象事業から本城公園及び岩下公園を削除した。	指標1の「避難場所(公園等)までの平均距離」、指標3の「公園のゆとり指数」が未達成である。		
	交付期間の変更	当初 変更	平成16年度～平成20年度 平成 年度～平成 年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	なし		

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	避難場所(公園等)までの平均距離	m	270	H15	140	H20		200	△	あり なし ●	公園整備は計画どおりに進まなかったが、近隣公園の谷山第二中央公園と街区公園の不動寺公園の整備が完了し、コミュニティの場となる公共空間と災害時の避難場所が確保された。	平成21年5月
指標2	緊急車両が離合できる道路の割合	%	43	H15	80	H20		68	△	あり なし ●	道路整備は計画どおりに進まなかったが、地区の大部分の道路において、消防車や救急車等の緊急車両が離合できる幅員が確保された。	平成21年5月
指標3	公園のゆとり指数	㎡/人	0.95	H15	5.80	H20		4.90	△	あり なし ●	公園整備は計画どおりに進まなかったが、近隣公園の谷山第二中央公園と街区公園の不動寺公園の整備が完了し、コミュニティの場となる公共空間と災害時の避難場所が確保された。	平成21年5月

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値		目標値		数 値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ 予定時期
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	消火活動範囲の拡大	%	69.3	H15	/	/	/	83.4	/	/	道路が整備されたことにより、新たに消火栓が設置され、地域の防災性が向上した。	平成21年5月
その他の数値指標2	安全な通学路の確保	%	0.0	H15	/	/	/	64.9	/	/	道路が整備されたことにより、児童、生徒等の通学及び地域の安全性が向上した。	平成21年5月
その他の数値指標3	視覚障害者誘導用ブロックの整備延長	m	1,648	H15	/	/	/	4,230	/	/	道路整備に併せて視覚障害者誘導用ブロックを設置したことにより、視覚障害者に対する安全性が向上し、戸外活動の場が広がった。	平成21年5月
その他の数値指標4	住民の安心・安全満足度	%	39.2	H15	/	/	/	84.8	/	/	まちづくり交付金や関連事業の実施により、公共施設の整備改善が図られ、地域住民の安心・安全に対する満足度が高まった。	平成21年5月

4)定性的な効果発現状況

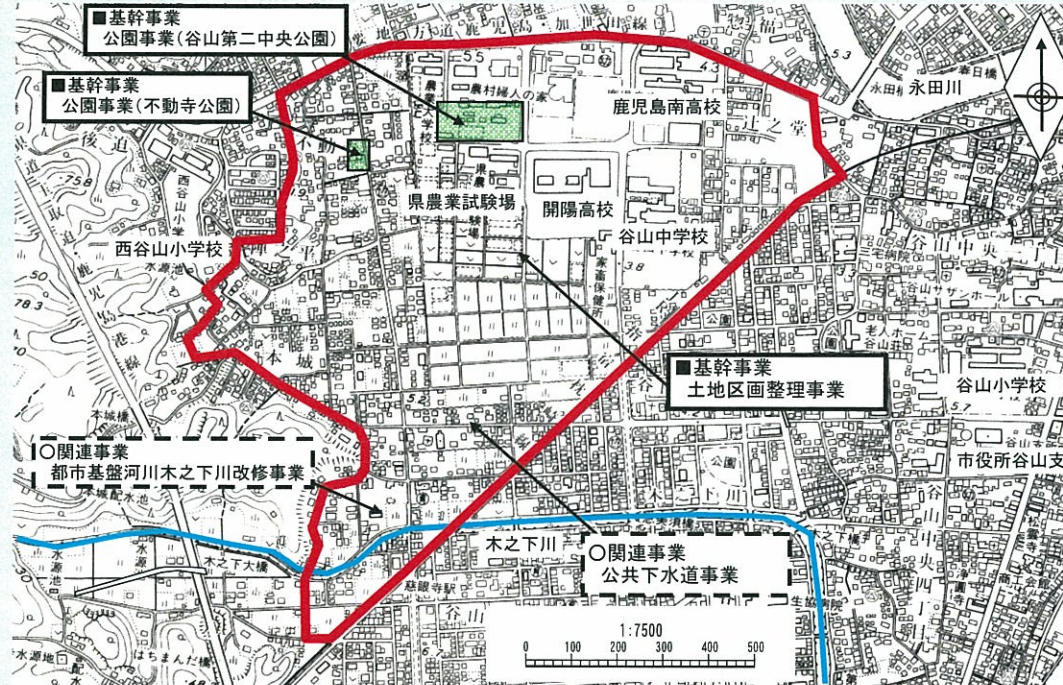
- ・宅地の利用増進とともに、良好な住環境の形成が図られた。
- ・消防車や救急車等の緊急車両の通行が可能となり、到着時間の短縮も図られ、市民の安心・安全に貢献した。
- ・良好なまち並みが形成されるなど、都市景観が向上した。
- ・県農業試験場跡地に開陽高校が開校し、また、盲学校の移転が決定するなど、既存の谷山中学校・鹿児島南高校とあわせて文教施設の集積が図られた。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
	住民参加プロセス	公園設計に係る住民アンケート調査	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		

様式2-2 地区の概要

谷山第二地区(鹿児島県鹿児島市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
公共施設の整備改善を行うことにより、人々が安心して暮らせるゆとりある都市を形成する。	避難場所(公園等)までの平均距離 単位:m	270 H15	140 H20	200 H20
	緊急車両が離合できる道路の割合 単位:%	43 H15	80 H20	68 H20
	公園のゆとり指数 単位:m/人	0.95 H15	5.80 H20	4.90 H20



土地区画整理事業で、まち並みが整備され、避難路・避難場所も確保できた。



歩道とあわせて視覚障害者誘導用ブロックも整備された。

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線道路、区画道路、公園などの公共施設の整備改善が図られたが、本地区の西側には、まだ未整備の箇所が残されている。 ・歩道が整備され、児童、生徒等の通学等の安全が図られたが、本地区の西側には整備すべき歩道が残されている。 ・公園2箇所の整備によりゆとりある憩いの場や避難場所が確保されたが、本地区の西側には整備すべき公園が残されている。 ・緊急車両が離合できる道路が確保され、安全性と防災性が向上したが、本地区の西側には緊急車両の離合が困難な道路が残されている。 ・土地区画整理事業の進捗に伴い、区画道路での交通事故が発生していることから、交通安全施設を整備するなど、歩行者や車両通行の安全性の確保が必要となってきた。
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業により改善された良好な住環境を維持するため、市民と協働した公共施設の維持管理に努める。 ・市街地の発展と都市機能が阻害されている箇所が残されていることから、道路、公園等の公共施設の整備改善を行い、居住環境良好な市街地の形成を図る。 ・土地区画整理事業の進捗に伴い、これまでの問題箇所は解消されつつあるが、道路の走行性が向上したことにより、他の箇所での交通事故が発生していることから、歩行者や車両が安全かつ快適に移動できるよう交通安全施設の整備を図る。